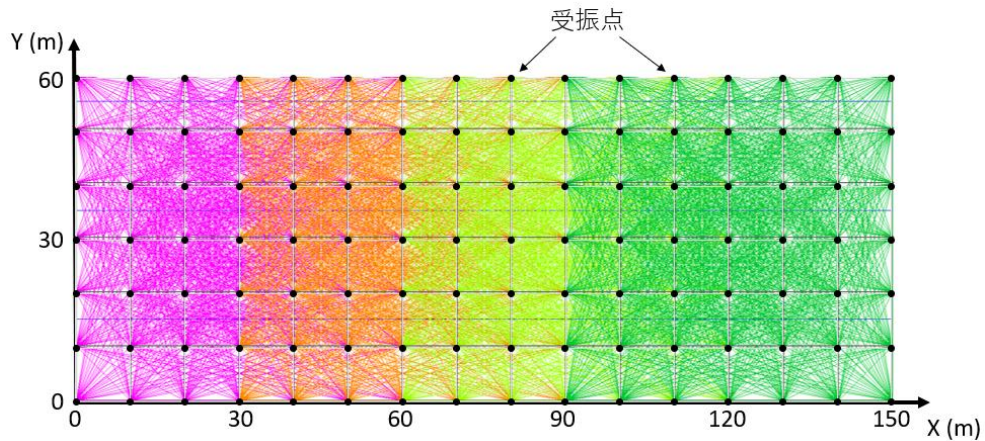
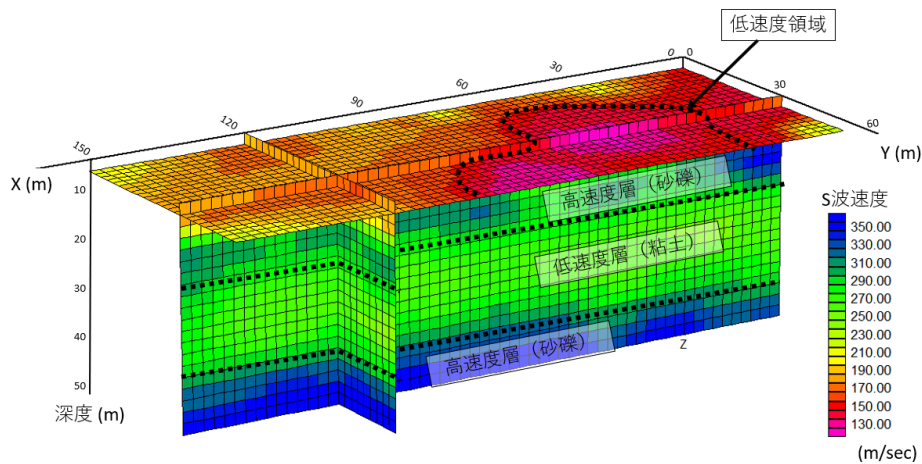


# 技術手帳：表面波を用いた二次元/三次元探査

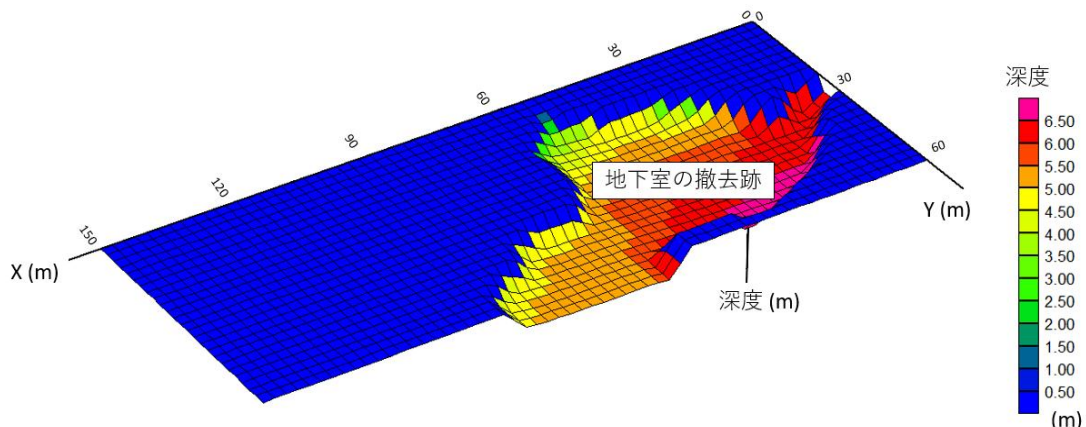
(本文27～28ページ参照)



1) 三次元常時微動トモグラフィの受振点配置例。49 台の測定器を10m 間隔で7 x 7 の格子状のアレイに設置した。アレイを移動して計4 展開の測定を行い60m x 150m の範囲を測定した。測定時間は各展開 20 分である。図中黒丸は受振点、受振点間の線は相関を計算した受振器の組み合わせを示し、色の違いは測定したアレイの展開の違いを示す。



2) 三次元常時微動トモグラフィの解析によって得られた三次元 S 波速度構造。調査地は洪積台地であるが、低速度の粘土層と高速度の砂礫層が水平成層をなしていることがわかる。深度 10m 以浅の浅部では、調査地の一部（図の右側）に低速領域が存在している。



3) 上に示した三次元 S 波速度から求めた S 波速度 170m/sec の上面深度の分布。自然地盤では、ほぼ地表から S 波速度は 170m/sec 以上であるが、図の右側の低速領域では、深度 6m 程度まで S 波速度は 170m/sec 以下で、地下室の撤去跡に相当すると思われる。

□絵写真-1 三次元常時微動トモグラフィの実施例